環境パートナーシップちば
だより
— つながれ ひろがれ —

Vol.８６
編　集　環境パートナーシップちば
代　表　桑波田　和子
事務局　千葉市中央区中央港1-11-1
(一財)千葉県環境財団業務部
環境活動支援課気付
電　話　043－246-2180
ＦＡＸ　043－246-6969

第１５回 ふなばし環境フェア出展報告
テーマ 「未来につなげよう　エコの環“わ”」

ふなばし環境フェア実行委員会　　斎藤　清

日時　平成２４年６月９日(土)、１０日(日)
会場　船橋市中央公民館４･５･６階及び館前広場
主催　船橋市環境フェア実行委員会（４５団体）

６月９日（土）は、去年と同様にあいにくの荒天となり、早朝から雨が降っていたにも関わらず、来場者は例年並みの約３,９００人となりました。

開会式では、舛田守良実行委員長、藤代孝七市長の挨拶の後、今年のテーマ及び生物多様性に沿ったメッセージを短冊にこめて、笹に飾りました。雨天とはいえ、午前中には約２,４００人来場し、各フロアーともに好評であり盛況を得られました。

また、１０日（日）は、環境フェアが第１５回目の開催となることを記念して「生物多様性シンポジウム」を開催しました。来場者数は１６０人となり、講師３名の基調講演及びパネルディスカッションにより、生物多様性への理解を深めました。

（説明員の話を熱心に聞き入る藤代市長）

今回はエコメッセちば実行委員会のブースに藤代孝七市長が訪れ、千葉県最大の環境イベント団体であることと再生エネルギー利用についての説明を熱心に聴いていただきました。

出展団体の内訳は、市民２８団体、事業者１０団体、学校３団体、行政４団体でした。

平成２４年度エコフェアいちはら
テーマ「拡げよう　あなたも私もできるエコ活動」

エコフェアいちはら実行委員会　桑波田 和子

日時　６月１６日(土)　１０時～１５時
会場　市原市市民会館　及び市役所駐車場

市原市は６月を「環境の月」と定め、事業者や市民とともに環境保全について関心と理解を深め、さらには自ら行動に移していただくために様々な事業を展開しています。その中でも「エコフェアいちはら」は、メイン事業として位置づけ、今年は１９回目を迎えました。主催は市原市と市民・事業者・行政の協働による、エコフェア市原実行委員会です。今年のテーマは、環境への気づきを持ってほしい、既にエコ活動をしていることを周りの方に広げてほしいとメッセージを託しました。

当日はあいにくの雨で、駐車場でのフリーマーケットは中止となり、来場者が気になりましたが、

市民会館の中には子どもから年配の方まで、多くの方が参加されました。ブースごとに工夫された展示や体験コーナーで、楽しそうに体験されている笑顔が印象に残りました。里山保全活動団体のブースでは、本物の生物展示があり、子どもも大人も市原の自然の豊かさと大切さを学びました。

当会は、千葉県温暖化推進センターからグッズをお借りして、「持てるかな？エネルギーのかば

ん」を行いました。子どもから大人まで多くの方に、私たちが日ごろ使っているエネルギーの重さを体感していただきましたが、意外なことに大人の男性が興味をもって下さいました。

屋外では、市原市の観光大使でチェーンソーカービング世界チャンピオンの栗田宏武氏による間伐材を使った実演もあり、見物者は、大きな音の中で熱心に作品が出来上がるのを見いっていました。また、市原市で生産され加工された地産池消コーナーもにぎやかでした。施設見学バスツアーは、震災以降の放射線について学べる千葉県環境研究センターでした。

いんざい環境フェスタ

亀成川を愛する会　小山　尚子

日時　６月９日（土）11 時～16 時
会場　イオンモール千葉ニュータウン
　　コスモス広場　（印西市）

千葉ニュータウン中央駅近くのモールの広場で開催されたいんざい環境フェスタに参加しました。このフェスタは、市民団体、企業、行政が展示やゲームなどによって、一般市民に環境をわかりやすくアピールするための催しです。当日は悪天候にも関わらず、600 人以上の来場者がありました。

亀成川を愛する会のテントでは、「日本の宝、印西の里山」と銘打って、印西の里山の風景や生きもののパネル展示を行い、亀成川やその周辺の里山の貴重さとその保全の必要性を訴えました。また，ブース来場者に「この１年間でこのカエルを見たことがありますか？」というアンケートをとりました。写真のカエルはトウキョウダルマガエル（関西ではトノサマガエル）。回答者 397 人のうち、大人 36 人、子供 43 人が見ていましたが、なんと 80%の人が、一番身近な生きもの、トウキョウダルマガエルを見ていなかったのです。

東京では絶滅しているというこのカエル、先日実施したカエル救出作戦では、三面コンクリート水路のわずか 70mの距離で、235 匹を救出しました。都市近郊において貴重な生きもののサンクチュアリとなっている亀成川流域は、必ず未来へ残したい貴重な財産です。

エコメッセ環境協働創造市キックオフ―「まるグル」会場でＰＲ―

今年で 17 回目の開催となる”エコメッセ 2012in ちば”には、桑波田実行委員長ほか多くの環境パートナーシップちば会員が運営に参画しています。

今年の”エコメッセ in ちば”取り組みの一番の特徴は、千葉県内初の試みとして「環境協働創造市」を実施することになったことです。

環境を良くしていくためには、企業・行政・学校・市民団体が連携・協働して取り組むことが大事なことは誰でもがよく理解しているところですが、お互いの主体性・自立性を尊重しながら取り組むことはなかなか難しいものです。

エコメッセ in ちばでの出会いを大切にして連携・協働の背中を押そうと企画したのが「環境協働創造市」ということになります。

この「環境協働創造市」参画第１弾として”エコメッセ 2012in ちば”と同時開催することになった「日本まるごとゴミ拾い」へとつなげるためのイベント「まるグル in 千葉ＱＶＣマリンフィールド」へ環パちばも協働取り組み提案の「花見川のナガエツルノゲイトウを何とかしたい！」をＰＲするため、６月９日 10 日に参加してきました。

現実は、長年開催しているエコメッセ in ちばの活動もまだまだ「まるグル」参加の多くの市民には知られていないことが分かりましたので、“エコメッセ in ちば”の PR をすることのほうが多かったように思います。

それでも、環パちばの出展に気づいて、展示によってくださったエコマインド修了生に活動でのお困りごとを聞いてみると、館山で作物を育てて東北の災害復興支援に持っていく活動をしているが、作物が出来て収穫する時には多くの人手が一時期に必要になる。この夏に必要な人手を求めたいが、その広報するこ

とすらできないということで急いでいらっしゃいましたので、人材育成事業をしている千葉自然学校にお話して講座生へのお誘いを検討していただくようにお話をつないできました。結果はまだ出ていませんが、こんな小さな連携協働も「環境協働創造市」ではないかと考えています。

（文責：横山）

環境パートナーシップエコサロン開催報告

昨年（2011 年）の５月の連休頃だったでしょうか。近藤先生とお話ししている中で、先生が週末のたびに福島に放射能調査にいらっしゃっていることを知りました。その後もお会いしたりメールのたびに福島のことが触れられており、先生の福島に対する思いが並々ならぬものであることが伝わってきて、いつかぜひ、先生の思いをお聞きしてみたいと考えるようになりました。

そんなとき、エコサロンの企画として採用され、近藤先生からも快諾が得られて、開催に至った次第です。

まず、放射能汚染の実態（調査結果）について、の文科省や他の大学の調査チームの観測結果も交えて説明いただきました。先生は「地元目線」なので、調査地点は幹線道路や代表点ではなく、民家の庭先や井戸水の水源地などで，自動車の入れないところは、ひたすら歩き回っての調査です。また、調査結果はすぐに地元に説明なさいます。

近藤先生は地元の人々のことをとても大事に考えていらっしゃいます。「までいの力」（SEEDS 出版）という本を紹介してくださいました。福島県飯舘村についての，2011 年３月 11 日午後２時 46 分以前の美しい飯舘村についての本です。

美しく希望に満ちた村の紹介のはずだったこの本が、出版時には美しかった村の本になってしまいました。私も読んでみたのですが、本を開くと、不思議なことに、無力感・絶望感ではなく「負げねど飯舘！！」という静かなパワーが湧いてきたのです。

お話の最後は、我々はこれからどういう世界を選ぶべきか。厳しい現実はあるものの、先生のお考えは決してネガティブではありません。農村的世界と都市的世界をうまく行き来できる世界を作る、というのが先生が示してくださった方向性です。私もそう考えてみようと思ったことでした。

第 53 回環境パートナーシップエコサロン
特別講演「放射能と向き合う」
講師：近藤昭彦教授
（千葉大学環境リモートセンシング研究センター）

2012 年７月 10 日（火）18：00～20：00
きぼーる 13 階会議室１　参加者：２３名

（文責：小倉）

近藤昭彦教授特別講演「放射能と向き合う」をお聞きして

環境パートナーシップちば会員　小林　悦子

のどかな山間部の風景をバックにしたタイトル画面が、一転真っ黒になり、“私たちの視界から消えても　絶たれた暮らしは依然として　阿武隈の山中にある”と記された導入に、近藤先生の思いと研究のスタンスが現れていることを、ご講演を最後までお聞きして知った。ご専攻の地理学を、“人と自然の関係学”と位置づけ、“地域の理解の先に世界の理解がある。地域が集まって世界になる。だから福島が大切”というご信念のもと、“チーム千葉大”を編成され、現地での地道な調査を継続されている。

主なるフィールドである川俣町山木屋地区（計画的避難区域）において、住民の念願・目的である“除染・帰還”の達成を共有し、地域に寄り添った形で地理学の役割を果たすべく、原発事故発生後の早期から活動されているのだ。文科省レベルから発信されたデータとの対比で、種々の時間的・空間的汚染マップの説明を受けた。2011年7月、8月に飯館村、川俣町で、自動車による“走行サーベイ”を、幹線道路以外の林道でも実施し、直ちに現地住民に報告された。さらに、“まだ足らない！より詳細な測定が必要”と、山地斜面を歩く“歩行サーベイ”を敢行された。同時に、“山村の暮らしは田畑、住居、里山を含む小流域における水・物質循環のもとで成り立っている”から、水源から採水して放射能測定も行われた。居住地から20m以内でしか実施されない国の除染に対して、“山からの水が暮らしを支える。里山流域単位の対策を！”という先生の主張は、こうした自らの実践を伴った重いものではある。

“放射能汚染ハザードマップ”はどうあるべきかもご提案されている。これからは、除染・帰還は暮らしスケールの除染を、つまり“小流域を最小単位”にして“地域ごとに”行うべきである。また、暮らしの安全・安心のために、大学の知識・経験を活用すべきであり、自分たちこそがその担い手であるという自負と責任を明確にされた。最後に、新しい国土のイメージとして、よく言われるグランドデザインを描く前に、人と自然の良好な関係と、都市と地方（農山漁村）の良好な関係を構築し、都市的世界と農村的世界を自由に行き来できる精神的習慣の醸成をはかることが重要であると、地理学からのご提言をされた。環パちばの一員として、これから環境にどう関わっていくかを考えさせられるご講演であった。

「企業・NPO によるパートナーシップ事業」平成 23 年度事業成果報告会に参加して

１ 会の概要

開催日：平成 24 年６月６日㈬
会場：県文書館、主催：県民交流・文化課

[プログラム]

□基調講演:
テーマ：2020 年の千葉のために、社会責任と協働をどう加速するか？社会責任は社会のためでなく、自社のためにこそ果たす意義がある。
講師：IIHOE［人と組織と地球のための国際研究所］代表　北川秀人氏

□事例紹介及び事例発表：
⑴ 23 年度に実施された８件のパートナーシップ事業の紹介
⑵ 以下、３例の発表
・「環境保全型農業の啓発活動の協働実施」
企業：（有）ナチュラルシードネットワーク
団体：環境パートナーシップちば
・「高齢者に向けた健康増進事業」
企業：テクニカルブレイン
団体：NPO 法人和運動開発協会･NPO 法人マンションズオーナーコミュニティ
・「金融に関する情報発信セミナー」
企業：プロミス㈱お客様サービスプラザ
団体：ちば元気づくりの会

□24 年度事業の説明

２ 感想

⑴ 基調講演
多くの企業の CSR 活動（企業の社会におけるすべての責任）に関わった経歴を持つ講師が特に強調したいことは、これからの世界～日本～千葉における社会、特に年齢構造、経済などの動向を踏まえると、CSR 活動は守りから攻めの姿勢に転じなければならないことだと受けとりました。

⑵ 事例発表
３例の発表をとおし、社会に新しい風が吹き始めていることを感じることができました。多少気になった点は、発表者が環境保全活動では市民団体であったが、他の２例は企業であったことです。このことから市民団体の資金・人材面の未熟を窺（うかが）わせたが、今後は、協働の推進に向け、市民団体はその活動領域を更に自覚し拡げてゆくことが必要だと思いました。

（文責：牧内）

メールマガジン「環パ通信」を発行します

「ホームページで情報発信」が環パちばの主な活動に掲げられ、今年度の事業計画で「環境ひろば千葉」（以下「ひろば」）をさらに普及させることにしています。「ひろば」は、多くの人が訪れ情報交換することによって存在意義が高まりますが、現状では「ひろば」の利用度がいま一つ不足していると言わざるをえません。

このため、「ひろば」の存在をもっと多くの人に知ってもらおうと、メールマガジン**「環パ通信」**を発行することにしました。
これは、予め登録された読者に対し、「ひろば」で発信された情報のタイトルや提供者の情報などをメール配信する方法です。
「環パ通信」の配信を希望する方は、まず「ひろば」のホームページにて読者登録を行ってください。また、皆さまのお友だちにも、読者登録をお勧めしてください。

●メールアドレスの管理
読者登録では、レンタルサーバー内にメールアドレスのみ登録し、他の個人情報は登録されません。「読者登録」、「読者解除」とも運営委員会を介さず、「ひろば」のホームページから自由に行っていただけます。（運営委員へご依頼くだされば、登録や解除を運営委員が代行することも可能です。ご遠慮なくお申し付けください。）

●発行時期
「ひろば」での更新状況により、必要なときに運営委員会で協議して発行します。第１号をまもなく発行いたします。

（文責：平田）

四街道小名木川での印旛沼水草探検隊に参加

水草探検隊は、印旛沼流域水循環健全化計画に掲げられた「ふるさとの生き物をはぐくむ印旛沼流域」の実現を図る一環として、市民と県が連携し、水草を主体とした流域の生態系調査を実施してきました。平成１７年度以降毎年度実施しており、今年度は第８回に当たり、サポーターとして参加してきました。

日時：2012 年６月 12 日（火）
８：30～15：00
集合場所：四街道市立中央小学校
参加人数：合計 169 名
四街道市立中央小学校４年生４クラス１１８名、校長・担当教諭計７名、専門家委員４名、(市民団体)四街道自然同好会１１名、四街道メダカの会４名　環境パートナーシップちば３名ほか２団体６名(市町村)四街道市下水道課５名、環境政策課２名、(事務局)千葉県成田土木事務所２名、印旛土木事務所２名、千葉県河川環境課２名、水質保全課２名、パシフィックコンサルタンツ４名
実施場所：鹿島川支川小名木川（四街道市 1.7km）：栗山橋～小名木橋の区間
実施内容：午前は１２班に分かれて小名木川フィ

ールド調査を行い、午後は各クラス、各班に分かれて調査結果のとりまとめを行った。
今回の水草探検隊の位置づけ：
モデル校において、総合学習の中での「課題発見」にあたる部分として、子どもたちの「気づき」を主眼に実施。水草探検隊で気づいたことを元に、今後の学習を一年間かけて展開していく形をとっているのが、今回の探検隊の特色。
午後の作業として、発見した植物や生きもの、川の様子について、分かったことを白地図に整理した。また、そこで分からなかったことや不思議に感じたこと等、たくさんの疑問点が児童から上がっていた。これらの課題を一年間通して学習できるのは、とてもいい総合学習と思いました。
ちなみに今までの水草探検隊の成果は水草マップ＆川の健康診断マップとして、http:// inba-numa.com/data/materials/mizukusamap/ で見ることができます。ぜひご覧ください。
（文責：加藤）

亀成川を愛する会の川の生き物調べ

亀成川を愛する会　　小倉　久子

「亀成川を愛する会」では、環境アドバイザーで環パちばのアドバイザーでもある鈴木優子さんを講師にお迎えして、「ふるさと印西の自然を見つけよう」（川の生きもの調べ）を開催しました。当日は愛する会の会員を中心に 12 名が参加して調査が行われました。
川に入りたくてしかたがない調査員たちを前に、まず鈴木さんから護岸の植生や川の形状などの全体的な見方の説明があった後、いよいよ調査開始です。みんな嬉々（きき）としてガサガサ（川岸の茂みの中に隠れている魚などを追い出して、網の中に入れ込む調査方法）に熱中します。亀成川はたくさんの生きものがいるので、とてもやりがいがあるのです。
しばらく思い思いの調査をした後で、鈴木さんから「集合！」の合図があり、各自の戦果を持ち寄りました。鈴木さんが１匹？づつ確認して、その生きものの種類で川の汚れ具合を判定してくださいます。

調査員たちがガサガサに夢中になっているとき、先生は小さなフルイでなにやら採っていらっしゃったのですが、フルイの上には川底の生きもの（トンボのヤゴ、スジエビ、カゲロウの幼虫など）が捕れていました。魚は遊泳力があるので、その場所の評価のためには川の底の生きもののほうが汚濁指標として有効だということを教えていただきました。
結果として、亀成川の評価は「一番きれいなランクⅠ」という鈴木さんの判定をいただき、調査員一同、亀成川を愛する心が倍増し、とても爽やかな調査を終えることができました（この調査結果は環境省・千葉県の「水生生物による水質調査」に報告しました。）。

今年も受託しました！
平成 24 年度千葉県環境学習指導者養成講座

昨年度初めてプロポーザル公募方式で実施された環境学習指導者養成講座を、今年も環パちばが受託させていただけることになりました。今回の企画提案には昨年度の経験を生かし、より実践的で役に立つ講座にまとめ上げました。

【環境学習指導者養成講座・導入コース】では、現場での学びを大事に考え、バスツアーを取り入れました（第４日目）。今年のツアーのテーマは「資源循環・バイオマス」です。また、これから活動を始める方のために、各分野の団体の活動を紹介し、質問や意見交換ができるような「場」を設定します（第５日目）。

【同・発展コース】では、プログラム作成に力を入れる講座に組み立てました。地元で実際に活動することを念頭においた「そのまま使えるプログラム」作りをめざします。毎年とても好評の、谷津干潟自然観察センターにおける講座も入っています（第２日目）。

【環境学習指導技能向上講座】は、すでに第一線で活躍している方を対象としたブラッシュアップ講座ですが、今年度の目玉は、浦安市郷土博物館で行われているさまざまな環境学習の技能（広報、展示、学校の授業、市民との協働体制、など）をまるごと学んでしまおう、という企画です（第２日目）。昨年度大好評だった「ファシリテーション実践」も、もちろん今年も開講します（第３日目）。

まずは、導入コースから開講します。すでに申込み受付を開始しております。締切日は８月31日ですが、先着順で 40 名の方のお申し込みを受け付けますので、どうぞお早めにお申し込みください。ちなみに、どの講座も無料です！

★ 申し込み方法
① HP： http://kanpachiba.com 上の申込みフォームから
② E-mail： moushikomi@kanpachiba.com
③ Fax（０４３－２４６－６９６９）又は郵送
（千葉県環境財団環境活動支援課 気付）
（②と③には、氏名・性別・年齢・連絡先・指導者養成講座の受講経験・所属団体・受講希望理由をご記入ください）
★問合せ先（講座事務局）
電話：０９０－８１１６－４６３３
E-mail：moushikomi@kanpachiba.com

（環境学習プロジェクトチーム担当：小倉）

導入コースのプログラム

☆　第1回　9月8日（土）
「環境保全活動とは、環境学習とは」
・オリエンテーション
・千葉県環境学習基本方針について
・アイスブレイキング（緊張のときほぐし）
・環境保全活動とは、環境学習とは
会場：フクダ電子アリーナ（千葉市中央区川崎町）

☆　第2回　9月23日（日）
「持続可能なライフスタイル」
（午前）資源循環
・3R（ゴミの減量と有効活用）
・資源循環型社会の構築に向けて
（午後）エネルギー問題と「温暖化防止」
・節電，省エネ
・これからの暮らし方
会場：きぼーる（千葉市中央区中央）

☆　第3回　9月29日（土）
「里沼・里山と生物多様性」
（午前）里沼と水循環
・印旛沼水系を例にとり，水循環の大切さを学ぶ。
（午後）里山と生物多様性
・里山の現状と課題と生物多様性
・里山保全活動の取組み
会場：千葉県教育会館（千葉市中央区中央）

☆　第４回　１０月１３日（土）
「実地見学（バスツアー）」
和郷園（香取市；資源循環型農業）
さんぶの森交流センター
（山武市；木質バイオマスエネルギー利用）

☆　第5回　１０月２７日（土）
「団体の活動紹介と交流」
・各分野の環境保全団体のさまざまな実践の紹介
「ふりかえりとまとめ」・修了式
会場：千葉県文化会館聖賢堂（千葉市中央区市場町）

県内の環境保全活動人（団体）紹介　―　11　―
おききしました！　この人・この団体
大槌町・復興ツーリズム

印旛沼探検隊　代表　新谷義男

国破れて山河在り
城春にして草木深し
時に感じては花にも涙を濺(そそ)ぎ
別れを恨んでは鳥にも心を驚かす
（後略）

まさに今、津波による被災地の光景。昨秋に私がはじめて岩手県大槌町を訪れたときは、まだ瓦礫(がれき)景が広がっていました。それから９か月が経ち瓦礫は片付き、草が生い茂り、流された家の基礎は草に隠れています。

少しですが私も仕事で復興に関わり、大槌町に臂徹さん（当時、建設コンサルタント。現在、一般社団法人おらが大槌夢広場事務局長）を訪ねたのが大槌町との交流のはじまりでした。町内を案内してくれたとき、何もなくなった町から見える海とそこに浮かぶ蓬莱島。「ひょっこりひょうたん島」のモデルとも言われている島が目に飛び込んできました。

「臂さん、Ｅボート（※）でひょっこりひょうたん島一周レースをしましょう。」

その言葉が今回の復興ツーリズム体験バスツアーにつながる初めの言葉でした。

おらが大槌夢広場（代表理事　阿部敬一）は震災の経験を次代の人々に伝えるために復興ツーリズムというガイドをしており、今回の旅の目的の一つである町内の視察をガイドの高田さんに案内してもらいました。

大槌町市街地は大槌川と小槌川に挟まれた平地に広がっており、今回の津波で大半が流されました。そうした中、これまで住民が気にしていなかった町の資源を発見することになります。一つは建物がなくなり、海が近くなったこと。もう一つは町なかでコンコンと湧き出す湧水でした。

午後は「ちょいボラ」を仮設住宅でオープンカフェとあそびの広場を提供するグループと海岸清掃とＥボートによるひょっこりひょうたん島一周の現地調査を行うグループで分かれて活動しました。海グループは地元の子供たちや年配の方々と一緒に乗って蓬莱島を一周しました。蓬莱島は海岸に近いですが、普段見ない裏側や弁天様のお社もはっきりと見ることができました。子供たちは

（親子、ツーリズム参加者によるＥボート体験）

初めての乗り物を存分に楽しんでくれました。大人の方も皆さん笑顔で楽しまれたようで、これで一周レースも更に一歩前進という感じです。

翌日は、陸前高田市の状況をＳＡＶＥ　ＴＡＫＡＤＡオフィスの代表の岡本翔馬さんに案内してもらいました。海岸の松林はなくなり、ただ一本の松が立っている姿に力強く生きる希望のようなものを感じました。

短い時間の滞在ではありましたが、大槌町と陸前高田市でお世話になった皆様は復興に向けて力強く活動されています。その皆さんが言うことは共通しています。

「また来て、まちの復興の姿を見続けてください。」

これからの復興支援は被災地を見守り続け、そこで力強く活動する方々と交流し、復興にむけて共に歩み続けていくことだと強く思いました。

「また、来年！」きっと参加した皆さんも心で応えた旅だったのではないでしょうか。

今回はじめてバスツアーを企画し、至らぬ点が多いところを参加者の皆さんに助けられ無事に帰れたことにこの場を借りて御礼申し上げます。また、この度は学校法人植草学園大学・短期大学のご理解、ご協力いただいたこと重ねて御礼申し上げます。そして多くの志を持つ皆様と短い時間でしたが共に活動ができたことを大変うれしく思います。

※　Ｅボートは水辺の交流や環境教育などを目的に開発された１０人乗りのゴムボート

運営委員会報告

６月運営委員会
日時　６月４日（月）
場所　船橋市民活動センター

【報告】
・第９回里山シンポジウム in 市原　他

【協議】
・だより　８６号
・環パ通信について
・企業とＮＰＯによるパートナーシップ事業報告会
・「印旛沼をきれいにする活動」について
・企業・NPO によるパートナーシップ事業
・環境パートナーシップ・エコサロン
・エコフェアいちはら
・環境学習指導者養成プロジェクト
・エコメッセちばプロジェクト

７月運営委員会
日時　７月１０日（火）
場所　きぼーる会議室

【報告】
・エコメッセ 2012in ちば 活動見本市出展
・協働創造市登録　・まるグル出展
・印旛沼水草探検
・エコフェアいちはら　・船橋環境フェア

【協議】
・だより８６号について
・環パ通信について
・リーフレットの作成
・エコサロンについて
・印旛沼をきれいにする活動
・環境学習指導者養成プロジェクト
・エコメッセちばプロジェクト

お知らせ

「エコメッセ2012inちば」1 日ボランティア募集！

【作業日時】平成 24 年９月 17 日(月･祝)9:00～17:00
早朝（6:30～10:00)、午前（9:00～13:30)、
午後（13:30～17:00）の３部制
【待　　遇】交通費（一律 1,000 円）支給。
【作業場所】幕張メッセ国際会議場
【問 合 せ】「エコメッセちば実行委員会」事務局
千葉市中央区中央港１－１１－１
(一財)千葉県環境財団　業務部　環境活動支援課気付
TEL :080-5374-0019　FAX :043-246-6969
E-mail：info@ecomesse.com
【申し込み】住所、氏名、年齢、連絡方法(電話、メール等)をご記入の上お申し込みください。

夏休み工作教室

【日時】８月 29 日（水）
10:30～12:00,13:30～15:30
【内容】実験・工作教室～(LED)
～発光ダイオード(LED)を使った「オリジナルムードライト」を作ろう／他会場で光通信
【講師】工学院大
【会場】県立 現代産業科学館
(市川市鬼高 1-1-3)
TEL：047-379-2005
(当日受付、定員超え抽選)

再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先：(一財) 千葉県環境財団　業務部
環境活動支援課 気付
TEL:043-246-2180　ＦＡＸ　043－246-6969
会費納入先：環境パートナーシップちば
郵便振替口座　00160-9-401872

＜環境パートナーシップちば＞
入会申込書
会の趣旨に賛同し（個人、団体、賛助会員として）
会費を添えて（郵便振替）入会します

氏 名		入会年月日	
住 所	〒		
ＴＥＬ		ＦＡＸ	
年会費	個人 1,000 円　団体 2,000 円　賛助会員 5,000 円		